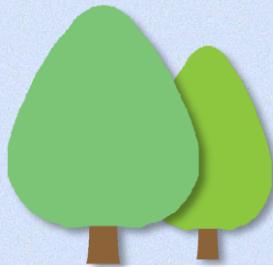


ウトナイ湖通信



No.260
2026年1月号



本年もウトナイ湖野生鳥獣保護センターをよろしくお願いします。湖面には氷が張り、寒さがいっそう厳しさを増す1月。上空を優雅に舞う、オオワシの躍動感あふれる姿が見られるかもしれません。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

1月のイベント情報

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

1月11日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、

屋外でウトナイ湖の自然を案内します。

※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

●定員:10名程度

●対象:一般(小学生以下保護者同伴)

●申込:不要。直接当センターへ。



市民ギャラリー

会期:2026年1月24日(土)~3月1日(日)

内容:この1年間で保護された傷病鳥の一部をパネルで紹介いたします。

傷病鳥獣救護記録展

またこれに合わせて、クイズラリーも開催。参加していただいた方には
参加賞もあるので、ぜひご参加ください。



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター



ラムートくん

ラムートくん

~ウトナイ湖~
・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
・フレイウェイ・パートナーシップ

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

検索

傷病鳥獣ルームから

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介いたします。



ウズラ



搬入直後
身体検査の様子



リハビリケージ内の様子

原因：人工物衝突疑い

9月30日

店舗駐車場で弱っている鳥がいるとのことで、一般の方が保護し、翌日センターに搬入。

10月1日

初診にて、左眼周囲が腫れており、衝突等によるものと思われた。身体検査を実施し、飛翔能力に異常は認められなかった。その後、室内や屋外のリハビリケージなどで経過観察を実施。容体は安定していたため、翌日リリースにいたる。

10月2日

リリース

ウズラ (キジ目 キジ科)

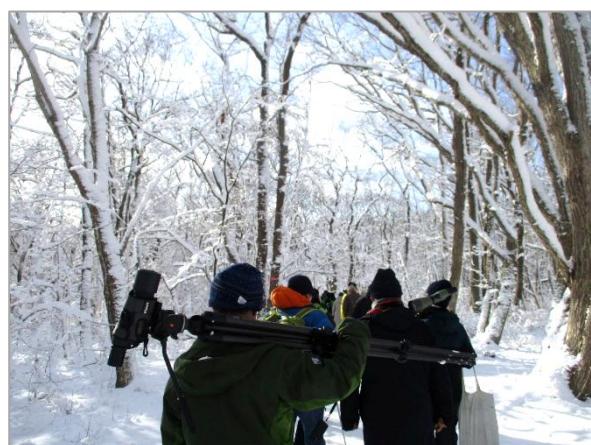
全長 20 cm。北海道には夏鳥として渡来します。平地の草原、河川敷、牧草地などで生息します。かつては全道で広く繁殖していたかと思われますが、近年著しく減少したといわれています。草むらの中を歩き、草の種子や芽、昆虫類などを食べます。

トピックス



今年度最後のボランティア体験講座を開催

市内外から5名の方にご参加いただき、定例のボランティア活動「水鳥カウント調査」を体験していただきました。オジロワシやヒシクイなど12種の野鳥が観察され、羽数や観察地点などを調査用紙に記録していきました。次回は来年度の開催となります。



世界湿地の日イベントで生きもの調査

12月13日に、環境省と苫小牧市共催でイベントを開催しました。野鳥や観察路に残された生きものの足跡を観察しながら、設置していたセンサーカメラを回収しました。湿地であるウトナイ湖に、どんな生きものが生息しているのかを参加者とともに調査し、その多様さを学びました。



ボランティアコーナー

11/30に開催した「ボランティア体験講座」に参加された さいとう さんに、インタビューしました。

「ボランティア体験講座」に参加しようと思った理由はなんですか？

前回ボランティア体験講座の参加を経て、実際ボランティア登録をさせていただきました。今回またボランティア体験講座があると聞いて「前回思い切ってボランティア登録してよかった！」という気持ちが、今回の参加者さんに伝えられるといいな、一緒に楽しめたらいいなと思い、参加させていただきました。

参加してみた感想を教えてください。

水鳥のカウントは私も初めてだったのですが、カウントの仕方や記録方法などを教えていただいて、とてもわかりやすかったです。

また、ほかの参加者さんの楽しそうに観察する様子を見て、今までとてもうれしくなりました。

印象に残ったことがあれば教えてください。

身近でよく見るカモにもいろんな種類がいること。カモメや猛禽類にも、たくさん、そうした細かな違いや見分け方などを知ることができて、とても奥が深いなと感動しています。



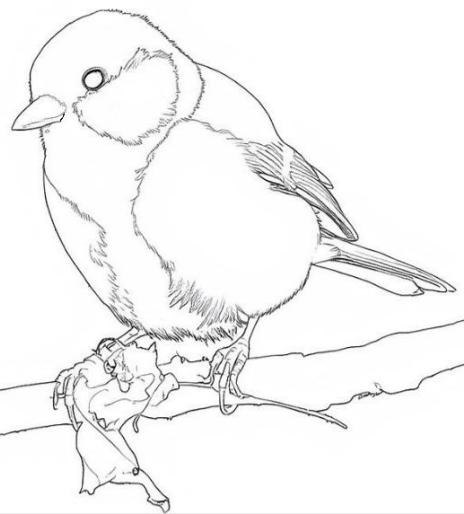
参加者に水鳥の位置を教える
さいとう さん

ウトナイ湖 お楽しみコーナー

【ウトナイ湖・ぬりえ】

ウトナイ湖の冬の林では、「ピーツピ、ヂヂヂヂ」という鳴き声が聞こえることがあります。鳴き声の正体は、「シジュウカラ」。オスは胸のネクタイ模様が太く、メスは細いという違いがあります。

今回は「シジュウカラ」のオスをぬってみましょう♪



公式SNSには、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



Facebook



X



レンジャーのおすすめ自然情報



【オオワシ】

遠く離れた氷の上にいることが多いので、観察するときは双眼鏡や望遠鏡が必要。オジロワシよりも黄色いくちばしが特に目立つて見える。



【ハシブトガラ】

頭に黒い帽子を被つているような姿が特徴。冬になるとツルウメモドキの実や、ハンノキの種を食べていることが多い。



【キバシリ】

太い木の幹を、縦にらせん状にのぼる姿がよく見られる。「チリリ」と小さな声が聞こえたら、木の幹にご注目を。

木々の葉も落ち、野鳥を観察しやすい

時期になりました。厳冬期はウトナイ湖が結氷(氷が張ること)し、氷の上にはオオワシやオジロワシが見られることもあります。森の中ではハシブトガラやキバシリなどの小さな野鳥が飛び交い、ふっくらとした冬羽の姿が見られます。寒い時期にしか見られないウトナイ湖の自然を、ぜひ楽しんでください。



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、[自然観察路マップ](#)はこちらから



Instagram



Facebook



X

自然観察路ガイドマップ【冬】

